3-253-601-06(1)

SONY

TV(1-12ch)/FM/AM CD ポータブルラジオ

取扱説明書・保証書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

ICF-CD73V

 Printed in China

品 名 ラジオ

型 名 ICF-CD73V

保証書 T10-1001A-4

ここに保証書が入ります

Complete the film by inserting the warranty at this position.

在此處插入保證書完成菲林。

在此位置插入保证书以完成胶片。

よくあるお問い合わせ、解決方法などはホームページをご活用ください。	http://www.sony.co.jp/support

使い方相談窓口
フリーダイヤル……0120-333-020
携帯電話・PHS・一部のIP電話……0466-31-2511

修理相談窓口
フリーダイヤル……0120-222-330
携帯電話・PHS・一部のIP電話……0466-31-2531
※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

左記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に「304」+「#」を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

FAX（共通）0120-333-389 **受付時間** 月～金:9:00～20:00 土・日・祝日:9:00～17:00

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。
事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

この取扱説明書の注意事項をよくお読みください。

定期的に点検する

1年に1度は、ACパワーアダプターのプラグ部とコンセントの間にほこりがたまっていないか、故障したまま使用していないか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットやACパワーアダプターなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店、ソニーサービス窓口に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、煙が出たら

1. 電源を切る
2. ACパワーアダプターをコンセントから抜く
3. お買い上げ店、ソニーサービス窓口に修理を依頼する

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠危険
この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

⚠警告
この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

⚠注意
この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

行為を禁止する記号

行為を指示する記号

⚠警告 （火災）（感電）

下記の注意事項を守らないと**火災・感電**により**大けが**の原因となります。

風呂・シャワー室でACパワーアダプターは使わない
漏電によって感電や発火の原因となります。

指定以外のACパワーアダプターを使わない
家庭用電源で使用するときは、必ず指定のACパワーアダプターを使用してください。
破裂や電池の液漏れ、過熱などにより、火災やけが、周囲の汚損の原因となります。

ぬれた手でACパワーアダプターをさわらない
感電の原因となることがあります。

内部に水や異物を入れない
水や異物が入ると火災や感電の原因になります。
万一、水や異物が入ったときは、ACパワーアダプターをコンセントから抜き、お買い上げ店、ソニーサービス窓口にご相談ください。

本体やACパワーアダプターを布団などでおおった状態で使わない
熱がこもってケースが変形したり、火災の原因になることがあります。

海外で使用しない
交流100Vの電源でお使いください。海外などで、異なる電源電圧で使用すると、火災や感電の原因となります。

雷が鳴りだしたら、電源プラグに触れない
感電の原因となります。

ガス管にアンテナ線をつながない
火災や爆発の原因となります。

運転中は使用しない
- 自動車、オートバイなどの運転をしながら、細かい操作をしたり、表示画面を見ることは絶対におやめください。交通事故の原因となります。
- また、歩きながら使用するときも、事故を防ぐため、周囲の交通や路面状況に充分にご注意ください。

⚠注意

下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**家財**に**損害**を与えたりすることがあります。

内部を開けない
感電の原因となることがあります。
内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。

通電中のACパワーアダプターや製品に長時間ふれない
長時間皮膚がふれたままになっていると、低温やけどの原因になることがあります。

長期間使わないときは、電源プラグを抜く
長期間の外出・旅行のときは安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。差し込んだままにしていると火災の原因となることがあります。

お手入れの際、電源プラグを抜く
電源プラグを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。

大音量で長時間続けて聞きすぎない
耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。呼びかけられて返事ができるぐらいの音量で聞きましょう。

はじめからボリュームを上げすぎない
突然大きな音が出て耳をいためることがあります。ボリュームは徐々に上げましょう。

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱・発火・誤飲による大けがや失明を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

本機では以下の電池をお使いいただけます。電池の種類については、電池本体上の表示をご確認ください。

乾電池
単2形

⚠危険 乾電池が液漏れしたとき

乾電池の液が漏れたときは素手で液をさわらない
液が本体内部に残ることがあるため、ソニーの相談窓口またはソニーサービス窓口にご相談ください。
液が目に入ったときは、失明の原因になることがあるので目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。
液が身体や衣服についたときも、やけどやけがの原因になるので、すぐにきれいな水で洗い流し、皮膚に炎症やけがの症状があるときには医師に相談してください。

⚠警告

- 小さい電池は飲み込む恐れがあるので、乳幼児の手の届くところに置かない。万が一飲み込んだ場合は、窒息や胃などへの障害の原因になるので、直ちに医師に相談する。
- 機器の表示に合わせて+と−を正しく入れる。
- 充電しない。
- 火の中に入れない。分解、加熱しない。
- コイン、キー、ネックレスなどの金属類と一緒に携帯・保管しない。ショートさせない。
- 液漏れした電池は使わない。
- 使い切った電池は取りはずす。長時間使用しないときも取りはずす。
- 新しい電池と使用した電池、種類の違う電池を混ぜて使わない。

⚠注意

- 火のそばや直射日光のあたるところ・炎天下の車中など、高温の場所で使用・保管・放置しない。
- 外装のビニールチューブをはがしたり傷つけたりしない。
- 指定された種類以外の電池は使用しない。

主な特長

- CD−R/RW再生対応CDプレーヤー。
- TV/FM/AM（20局プリセット機能付き）PLLシンセサイザーチューナー。
- 浴室やキッチンで音楽が楽しめる、防沫形*CD／ラジオです。
- 選局、時計合せが素早く行えるシャトルダイヤル。
- 時刻を「ピピッ」と音でお知らせするタイマー機能（1分～120分まで1分単位で設定可能）。
- 卓上でも、つり下げでも使えます（ストラップ付属）。

*このラジオの防水性能は防沫形（JIS日本工業規格）です。

使用上のご注意

取り扱いについて

- 落としたり、強いショックを与えたりしないでください。故障の原因になります。
- 次のような場所には置かないでください。
  —温度が非常に高いところ（40℃以上）や低いところ（0℃以下）。
  —直射日光のあたる場所や暖房器具の近く。
  —風呂場など湿気の多いところに長時間放置する。
  —窓を閉めきった自動車内（特に夏季）。
  —ほこりの多いところ。
- ラジオの内部に液体や異物を入れないでください。
- 汚れたときは、柔らかい布でからぶきしてください。シンナーやベンジンは表面をいためますので使わないでください。
- キャッシュカード、定期券など、磁気を利用したカード類をスピーカーに近づけないでください。スピーカーの磁石の影響でカードの磁気が変化して使えなくなることがあります。

防水性について

このラジオは、浴室でもお使いいただけるように防沫機構になっていますが、次の点に充分ご注意ください。

- 浴室など濡れた場所でお使いになるときは、乾電池でお使いください。
- 大量に水をかけないでください。
- 水中につけないでください。
- 石鹸の泡のついた手でさわらないでください。
- ドライヤーで乾かさないでください。
- スピーカー内に水が入った場合は本体をさかさまにして、水を出してください。
- CD／電池ぶたの開閉は、乾いた布で水滴をふき取ってから水のかからないところで乾いた手で行ってください。
- 浴室など湿気の多い所では、CDの交換／CDぶたの開閉はしないでください。
- CD／電池／DC IN（デーシーイン）端子のふたは確実に閉めた状態でお使いください。ふたのゴム部分は防沫用のパッキンです。傷をつけないようご注意ください。
- 水の浸入による製品の故障については、保証期間内でも有料修理をさせていただきます。ご了承ください。

万一故障した場合は、内部をあけずに、ソニーの相談窓口またはお買い上げ店、ソニーサービス窓口にご相談ください。

CDに関するご注意

CDについて

本機では円形ディスクのみお使いいただけます。円形以外の特殊な形状（星型、ハート型、カード型など）をしたディスクを使用すると、本機の故障の原因となることがあります。

CD-R/CD-RWについて

本機は、CD-DAフォーマット*で記録されたCD-R（レコーダブル）およびCD-RW（リライタブル）ディスクを再生することができます。ただし、ディスクや記録に使用したレコーダーの状態によって再生できない場合があります。

*CD-DAは、Compact Disc Digital Audioの略で、一般オーディオCDに使用されている、音楽収録用の規格です。

ご注意

- ファイナライズ処理（通常のCDプレーヤーで再生できるようにする処理）をされていないCD-R/CD-RWディスクは本機では再生できません。
- CD-R/CD-RWでは、ディスクや記録に使用したレコーダーの状態によって、再生された音がとんだり、雑音が入ったりすることがあります。

著作権保護技術付音楽ディスクについて

本機は、コンパクトディスク（CD）規格に準拠した音楽ディスクの再生を前提として、設計されています。最近、いくつかのレコード会社より著作権保護を目的とした技術が搭載された音楽ディスクが販売されていますが、これらの中にはCD規格に準拠していないものもあり、本機で再生できない場合があります。

DualDisc ご使用においてのご注意

DualDisc とは DVD 規格に準拠した面と、音楽専用面とを組み合わせた新しい両面ディスクです。尚、この音楽専用面はコンパクトディスク（CD）規格には準拠していないため、本製品での再生は保証致しません。

結露について

本機やディスクを寒い屋外から暖かい室内に持ち込んだ直後などは、本体内部のレンズやディスクに露がつき(結露)、正しく動作しないことがあります。ディスクを取り出して結露がとれるまで約1時間放置してください。正常に動作するようになります。何時間たっても正常に動作しない場合は、サービス窓口にご相談ください。

CDの取り扱いかた

- 文字の書かれていない面（演奏面）に触れないように持ちます。
- 紙やシールなどを張ったり、傷つけたりしないでください。
- 長時間演奏しないときは、ケースに入れて保存してください。ケースに入れずに重ねて置いたり、ななめに立てかけておくとそりの原因になります。

CDのお手入れのしかた

- 指紋やほこりによるCDの汚れは、音質低下の原因になります。いつもきれいにしておきましょう。
- ふだんのお手入れは、柔らかい布でCDの中心から外の方向へ軽く拭きます。
- 汚れがひどいときは、水で少し湿らせた布で拭いたあと、さらに乾いた布で水気を拭き取ってください。
- ベンジンやレコードクリーナー、静電気防止剤などは、CDを傷めることがありますので、使わないでください。

故障かな？と思ったら

サービス窓口にご相談になる前にもう1度チェックしてみてください。

CDが入っているのに「TRACK 00」が表示されて演奏が始まらない

→ CDが裏返しになっている場合は、文字のある面を手前にする。
→ CDが正しい位置に入っていない場合は、CDぶたを開けて入れ直す。
→ CDの汚れがひどい場合は、クリーニングする。
→ レンズに露（水滴）がついている場合は、CDを取り出してCDぶたを開けたまま約1時間放置する。

CDの音がとぶ

→ 音量を下げる。
→ CDの汚れがひどい場合は、クリーニングする。
→ 振動のない場所に置く。
→ CDに傷がある場合は、CDを取り換える。
→ レンズが汚れている場合は、別売りのクリーニングキットでクリーニングする。

雑音が多く音が悪い、または受信状態が悪い

→ 乾電池が消耗している場合は、電池をすべて交換する。
→ 建物や乗り物の中では電波が弱いので、なるべく窓際でお聞きください。

テレビ放送が聞こえない。

→ 地上アナログテレビ放送は2011年7月までに終了することが、国の法令によって定められています。地上アナログテレビ放送終了後は、本機ではテレビの音声を聞くことはできません。

表示窓の文字や記号が薄い、または表示窓に何も表示されない

→ 乾電池が消耗している場合は、電池をすべて交換する。
→ 極端に暑い場所や寒い所、湿気の多いところで使っている。

表示窓に「電池マーク」が表示され、音がでない

→ 乾電池が消耗している場合は、電池をすべて交換する。

主な仕様

時間表示	12時間表示

CDプレーヤー部

型式	コンパクトディスクデジタルオーディオシステム
チャンネル数	2チャンネル
ワウフラッター	測定限界以下（JEITA*）
周波数特性	20～20,000 Hz $^{+1}_{-1.5}$ dB (JEITA*)

ラジオ部

受信周波数	TV:1～12チャンネル FM:76～108 MHz AM:531～1,629 kHz

地上アナログテレビ放送は2011年7月までに終了することが、国の法令によって定められています。地上アナログテレビ放送終了後は、本機ではテレビの音声を聞くことはできません。

共通部

スピーカー	直径 5cm 丸型6 Ω 2個
実用最大出力	400 mW ＋400 mW（JEITA*）
電源	DC 6 V、単2形乾電池4本
外部電源	DC IN 6 V端子、付属のACパワーアダプターを接続して AC100 V、50/60 Hzから使用可能
オートオフ機能	約30分、60分、90分、120分、OFF
最大外形寸法	約151.5×248×84 mm（突起部含む）（幅×高さ×奥行）（JEITA*） 約150×212×78 mm（突起部含まず）（幅×高さ×奥行）
質量	約1350 g（乾電池含む）

*JEITA（電子情報技術産業協会）規格による測定値です。

eco info 主なはんだ付けに無鉛はんだを使用。主なプリント配線板にハロゲン系難燃剤を不使用。

付属品

ACパワーアダプター（1） ストラップ（1）
吸着盤（1） 取扱説明書・保証書（1） ソニーご相談窓口のご案内（1）

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

保証書とアフターサービス

保証書

- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービスについて

調子が悪いときは
この説明書をもう1度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときは
ソニーの相談窓口またはお買い上げ店、お近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

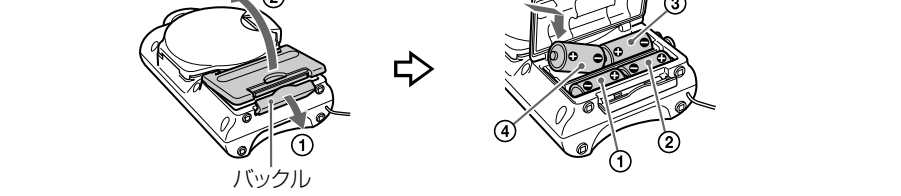
保証期間経過後の修理は
修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではラジオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後6年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、ソニーの相談窓口またはお買い上げ店、ソニーサービス窓口にご相談ください。

電源について

乾電池で使うには

乾電池は付属していません。購入する場合はソニー単2形アルカリ乾電池をおすすめします。

1 電池ぶたを押さえるようにしてバックルをはずし、ふたを開ける。

2 ソニー単2形乾電池4本を、⊕と⊖の向きを正しく入れる。

3 電池ぶたを閉じ、バックルをカチッと音がするまで閉める。

初めて乾電池を入れると、表示窓に「AM12：00」が点滅します。点滅を止めるには、時刻合せボタンを押して時計を合せてください。「時計を合せる」をご覧ください。

ご注意

- 乾電池で使うときは、ACパワーアダプターを抜いてください。ACパワーアダプターをDC IN端子に差し込んだままにすると、乾電池ではお使いになれません。
- 電池を交換するときに、本体を強く押さえつけないでください。表示部分を傷つけたり、故障の原因となる場合があります。

乾電池持続時間

（JEITA[*1]）

	TV(1–12ch)	FM	AM	CD
ソニー単2形（LR14）アルカリ乾電池	約50時間	約50時間	約60時間	約18時間[*2]
ソニー単2形（R14）マンガン乾電池	約15時間	約15時間	約17時間	約3時間[*2]

[*1] JEITA（電子情報技術産業協会）規格による測定値です。実際の電池持続時間は、使用する機器の状況により変動する可能性があります。
[*2] 音量8分目程度で聞く時のめやすです。

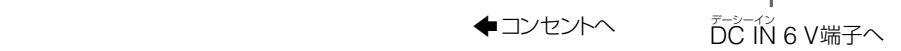
乾電池の交換時期

乾電池が消耗してくると、音が小さくなったりひずんだりして、表示窓に「▭」が点滅します。カラになると「▭」が点灯して、ラジオ／CDが止まります。その場合は、乾電池を4本とも新しいものと交換してください。
CD再生中に電池が消耗してくると、表示窓に「▭」が点滅し、カラになると「▭」が点灯して再生が止まります。再び電源を入れると電池がカラになるまでラジオを聞くことができます。

電池交換時のご注意

電源を切ってから5分以内に交換してください。電源が入ったまま交換したり、交換に5分以上かかると、現在時刻やプリセット選局した設定が消えてしまいます。その場合はもう1度設定してください。
乾電池を交換した後は、ラジオ（RADIO ON・BAND）ボタン、（CD►II)ボタンのいずれかを押してください。「▭」が表示窓から消えます。

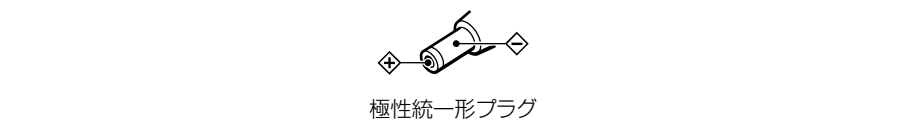
コンセント（家庭用電源100 V）で使う

付属のACパワーアダプターをDC IN 6 V端子とコンセントにしっかりと差し込んでください。乾電池が入っていても自動的に家庭用電源に切り換わります。

ご注意

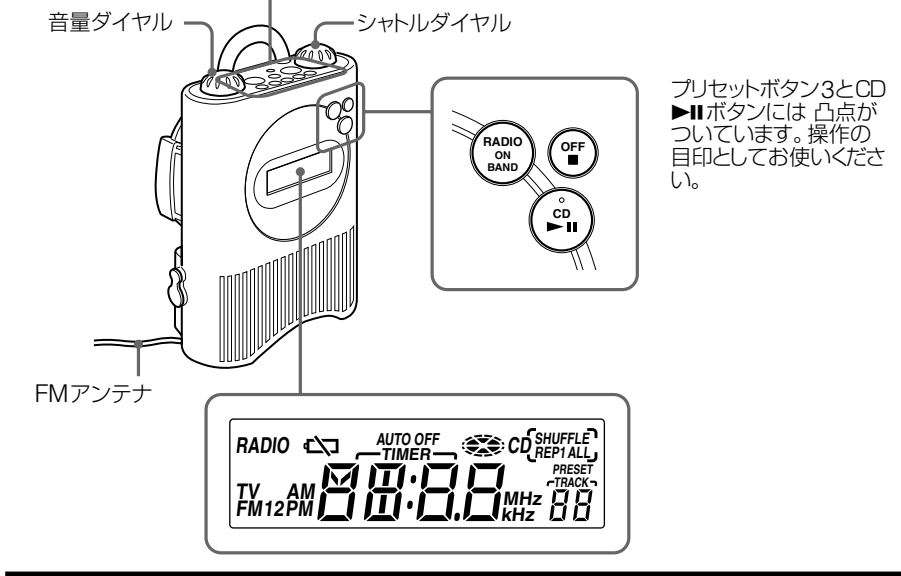
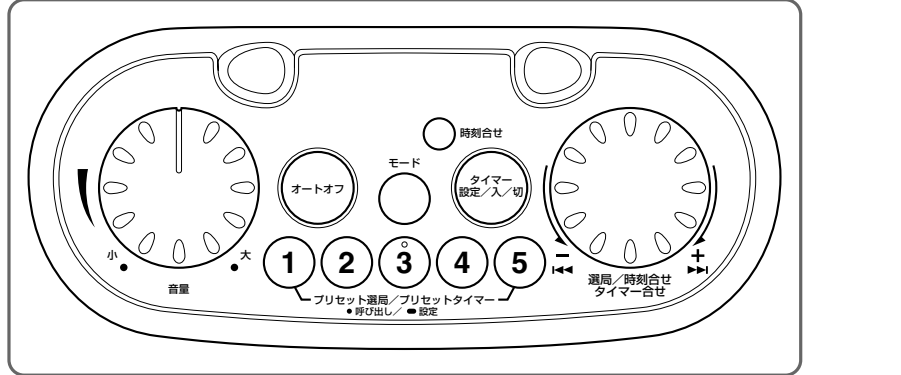
- 家庭用電源で使うときも、時計と内蔵のマイコンのバックアップのため乾電池は入れたままにしてください。この場合にも電池は消耗するので、約1年で交換してください。
- 家庭用電源で長時間使用されないときには、液もれを防ぐために乾電池は取り出してください。（現在時刻やプリセット選局の設定が消えてしまいます。その場合は、もう1度設定してください。）
- ACパワーアダプターのプラグを抜き差しすると「▭」が表示される事があります。この場合、電源を入れると「▭」は消えます。
- ACパワーアダプターをご使用にならないときは、必ず、DC IN 6 V端子のカバーを閉めてください。DC IN 6 V端子のカバーが開いた状態では、端子部分の防沫機構が働きません。
- 旅行などで長い間ご使用にならないときは電源を切り、ACパワーアダプターをDC IN 6 V端子とコンセントの両方から抜いてください。

ACパワーアダプターについて

- 付属のACパワーアダプター（極性統一形プラグ・JEITA規格）をご使用ください。下記以外の製品を使用すると、故障の原因になることがあります。

極性統一形プラグ

- ACパワーアダプターは容易に手が届くような電源コンセントに接続し、異常が生じた場合は速やかにコンセントから抜いてください。
- ACパワーアダプターをご使用時は、以下の点にご注意ください。
  —本機を本棚や組み込み式キャビネットなどの狭い場所に置かないでください。
  —火災や感電の危険を避けるために、水のかかる場所や湿気の多い場所では使用しないでください。また、本機の上に花瓶など水の入ったものを置かないでください。

各部のなまえ

プリセットボタン3とCD►IIボタンには 凸点がついています。操作の目印としてお使いください。

時計を合せる

初めて乾電池を入れたりACパワーアダプターをつないだりすると、表示窓に「AM12:00」が点滅します。

1 時刻合せボタンを約2秒以上押したままにする。

「ピッ」と音が鳴って「時」が点滅します。

2 シャトルダイヤル（選局／時刻合せ・タイマー合せ）を+または－の方向に回して「時」を合せ、時刻合せボタンを押す。

「ピッ」と音が鳴って「分」が点滅します。

3 シャトルダイヤル（選局／時刻合せ・タイマー合せ）を+または－の方向に回して「分」を合せ、時刻合せボタンを押す。

「ピピッ」と音が鳴って表示窓の「：」が点滅を始め、時計が動き出します。シャトルダイヤル（選局／時刻合せ・タイマー合せ）を+または－の方向に回したままにすると数字が速く変わります。

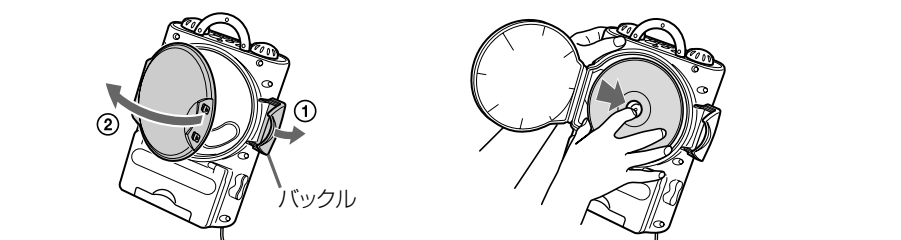
秒まで正確に合せるには

「分」を合せ、電話の時刻サービス（117番）などの時報に合せて時刻合せボタンを押します。

ご注意

AMは午前、PMは午後です。AM12:00 ＝ 真夜中　PM12:00 ＝ 正午

CDを聞く

1 本体裏側のCDぶたのバックルをはずして、音楽CDを入れる。

2 CDぶたを閉じ、バックルをカチッと音がするまで閉める。

3 CD►IIボタンを押す。

再生がはじまると、「 」（再生）と「 TRACK 01 」（曲番）が表示されます。

4 音量ダイヤルで、音量を調節する。

8 cm（3インチ）CDもアダプターなしで再生できます。

こんなときは	操作のしかた
再生中に一時停止する	CD►IIボタンを押す もう1度押すと再生が始まる
再生中の曲の頭出し	I◄◄の方向へ短く回す
次の曲の頭出し	►►Iの方向へ短く回す
早送り	I◄◄の方向へ回し、止めたい場所で手をはなす
早戻し	►►Iの方向へ回し、止めたい場所で手をはなす
再生を止める	OFF■ボタンを押す。

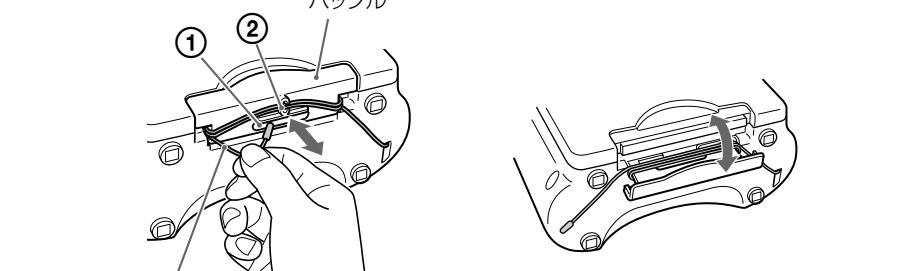
いろいろな再生モード

繰り返し再生やランダム再生など、5通りの再生モードがあります。モードボタンを押すたびに再生モードが以下のように切り換わります。

表示	再生モード
なし	通常の再生(1曲目から全曲再生)
「REP1」	1曲だけを繰り返し再生
「REP ALL」	全曲を繰り返し再生
「SHUFFLE」	全曲を順不同に再生
「SHUFFLE REP」	全曲を順不同に繰り返し再生

ご注意

- CD►IIボタンを押してもCDが入っていないと、表示窓に5秒間「00」が点滅します。
- CD再生中に一時停止をさせてから20分経過するとCDは止まります。

FMアンテナコードを使う

FMアンテナを取り出す

FMアンテナコードの先端を①から抜き、バックルを開けます。バックルに巻かれているFMアンテナコードをすべて取りはずし、バックルを閉じます。

FMアンテナをしまう

本体底部のバックルを開けて、FMアンテナコードをバックルに巻き取っていきます。すべて巻き取れたら、バックルを閉じます。外部に出ているFMアンテナコードを溝②にはめ込み、FMアンテナコードの先端を①に収納します。

FMアンテナを固定する

付属の吸着盤にFMアンテナコードの先端を押し込んで図のようにコードを結び、壁に取り付けてお使いください。

受信状態を良くする

TV、FM放送の場合

FMアンテナコードを受信状態の良い方向に伸ばしてお使いください。
FMアンテナコードを固定する場合は、付属の吸着盤をお使いください。（詳しくは「FMアンテナコードを使う」をご覧ください。）

FMアンテナコード

AM放送の場合

アンテナを内蔵しているので、ラジオの向きを変えて、最も良く受信できる方向にしてお聞きください。

ご注意

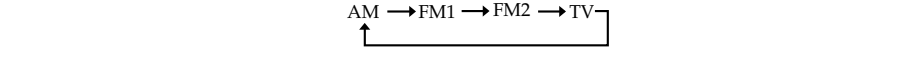
- 乗り物やビルの中では電波が弱められますので、雑音が気になるときは、なるべく窓際でお聞きください。
- スチール机の上や金属面で本機を操作しないでください。受信状態が悪くなることがあります。

ラジオを聞く—マニュアル選局

1 ラジオ（RADIO ON・BAND）ボタンを押して、ラジオの電源を入れる。

2 もう1度ラジオ（RADIO ON・BAND）ボタンを押して、バンドを選ぶ。

ボタンを押すごとにバンド表示が変わります。

AM → FM1 → FM2 → TV

FM1とFM2はプリセット選局／プリセットタイマーボタンに記憶しておくときに使います。ラジオを聞くときには、どちらに合せても同じです。

3 シャトルダイヤル（選局／時刻合せ・タイマー合せ）を＋または－の方向に回して聞きたい局に合せる。

＋の方向に回すと数字が進み、－の方向に回すと数字が戻ります。

4 音量ダイヤルで音量を調節する。

受信中の放送局を確認するには

ラジオ(RADIO ON・BAND)ボタンを押すか、シャトルダイヤル（選局／時刻合せ・タイマー合せ）を＋または－の方向に軽く回します。表示窓にバンドと周波数が数秒間表示されて時刻表示に戻ります。受信中すぐに時刻を見たい時は時刻合せボタンを押すと表示されます。

ご注意

本機はFMステレオ放送のみステレオで聞くことができます。AMステレオ放送／TVステレオ放送はモノラルになります。

電源を切るときは

オフボタン（OFF■）を押します。

テレビ放送の受信についてのご注意
地上アナログテレビ放送は2011年7月までに終了することが、国の法令によって定められています。地上アナログテレビ放送終了後は、本機ではテレビの音声を聞くことはできません。

いつも聞く放送局を記憶させて聞く — プリセット選局

TV、FM1、FM2、AM各バンド5局、合せて20局まで記憶させることができます。聞くときは、プリセット選局／プリセットタイマー1～5ボタンを選ぶだけで受信できます。

放送局を記憶させる

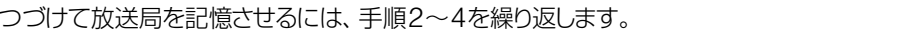
1 ラジオの電源を入れる。

2 バンドボタンを押してバンドを選ぶ。

3 記憶させる放送局を受信する（「マニュアル選局」で放送局を選びます）。

4 記憶させたいプリセット選局／プリセットタイマー1～5ボタンを選び、「ピピッ」と音がするまで2秒以上押したままにする。

受信している放送局が記憶され、表示窓にプリセット番号が表示されます。

例）プリセットボタン2にFM2の90.0 MHzを記憶させたときの表示

つづけて放送局を記憶させるには、手順2～4を繰り返します。

記憶させた放送局を変更するには

「いつも聞く放送局を記憶させて聞く」の手順2からやり直してください。前に記憶させた放送局は消え、受信している放送局が記憶されます。

記憶させた放送局を聞く

1 ラジオの電源を入れる。

2 もう1度ラジオ(RADIO ON・BAND)ボタンを押して、バンドを選ぶ。

3 プリセット選局／プリセットタイマー1～5ボタンを押し、聞きたい放送局を選ぶ。

プリセット選局／プリセットタイマーボタンは2秒以上押さないでください。受信している放送局が前に記憶させた放送局と入れ換わってしまいます。

4 音量ダイヤルで音量を調節する。

数秒経つとプリセット選局／プリセットタイマーボタンの番号が表示された状態で、現在時刻表示に戻ります。

ステレオとモノラル受信の切換え

FMステレオ放送を受信するときは「ST」(ステレオ)モードを選びます。

1 ラジオの電源を入れる。

2 もう1度ラジオ(RADIO ON・BAND)ボタンを押して、FM1かFM2を選びます。

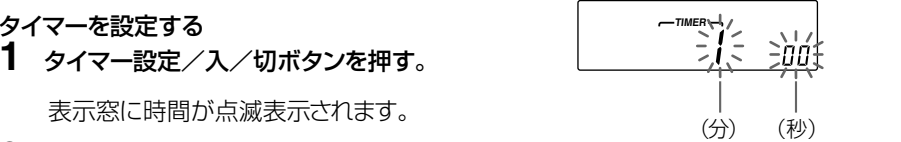
3 モードボタンを押して「ST」(ステレオ)または「Mono」(モノラル)を表示させます。

モードボタンを押すたびに「Mono」と「ST」が切り換わります。

受信状態が悪いときは「Mono」に切り換えます。ステレオではなくなりますが、雑音が減り聞きやすくなります。

便利な機能

タイマーを使う

設定時刻に「ピピピピッ」とブザーを鳴らすことができます。1分から120分まで、1分刻みで設定することができます。

タイマーを設定する

1 タイマー設定／入／切ボタンを押す。

表示窓に時間が点滅表示されます。

（分）（秒）

2 シャトルダイヤル(選局／時刻合せ・タイマー合せ)を＋または－の方向に回して、希望の動作時間を表示させる。

3 タイマー設定／入／切ボタンをもう1度押す。

「ピピッ」と音が鳴り、表示窓の時間が秒読みを開始します。表示された時間になるとブザーが「ピピピピッ」と連続して鳴ります。
設定した時間が経過すると、ブザーが約30分間鳴ります。ラジオ／CDを聞いているときにブザーが鳴るとラジオ／CDが聞こえなくなり、ブザーが止まると再びラジオ／CDを聞くことができます。タイマー動作が終わった後は現在時刻表示に戻ります。

ブザーを止めるには

タイマー設定／入／切ボタンを押します。

タイマーを解除するには

タイマー設定／入／切ボタンを押します。表示は現在時刻表示に戻ります。

現在時刻表示に変えるには

時刻合せボタンを押します。現在時刻が数秒間表示されて、タイマー時間表示に戻ります。

周波数表示に変えるには

ラジオボタン（RADIO ON・BAND）を押します。受信中の周波数が数秒間表示されて、タイマー時間表示に戻ります。

CD再生表示に変えるには

時刻合せボタンを押します。現在時刻と一緒にTRACK(曲)番号が数秒間表示されて、タイマー時間表示に戻ります。

よく使うタイマーの時間を記憶させる

プリセット選局／プリセットタイマー1～5ボタンでタイマーの時間を5種類まで記憶させることができます。
手順1、2でタイマーの動作時間を表示させて、記憶させたいプリセット選局／プリセットタイマー1～5ボタンを選び、「ピピッ」と鳴るまで押したままにします。

記憶させたタイマーを使うには

タイマー設定／入／切ボタンを押した後、使いたい時間を記憶させてあるプリセット選局／プリセットタイマー1～5ボタンを押します。
もう1度タイマー設定／入／切ボタンを押すとタイマーが動きます。

オートオフ機能を使う

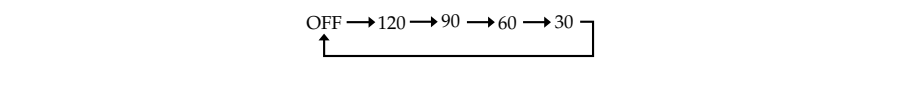
設定した時間が過ぎると自動的にCDまたはラジオの電源が切れます。

1 ラジオ（RADIO ON・BAND）ボタンまたは、CD►IIボタンのいずれかを押して電源を入れる。

2 オートオフボタンを押す。繰り返し押して希望の時間を表示させる。

設定時間（120分、90分、60分、30分、OFF）

押すごとに次のように変わります。

OFF → 120 → 90 → 60 → 30

数秒後、オートオフ表示が現在時刻表示に変わり、オートオフ機能が働きます。
オートオフ機能が動作中は「AUTO OFF」が表示されます。設定した時間が経過すると、自動的に電源が切れます。

設定後に動作時間を変えるには

オートオフボタンを繰り返し押して、希望の時間を選びます。途中で電源を切るにはオフ（OFF■）ボタンを押します。

ラジオをつり下げてお使いになりたいときは

図のように取り付けてお使いください。

ご注意

- 付属のストラップは、つり下げ用としてのみお使いください。本機の持ち運びには、お使いにならないでください。
- 落ちやすい場所につり下げないでください。